

2011.6.29

東日本大震災に関する宅地被害アンケート概要報告

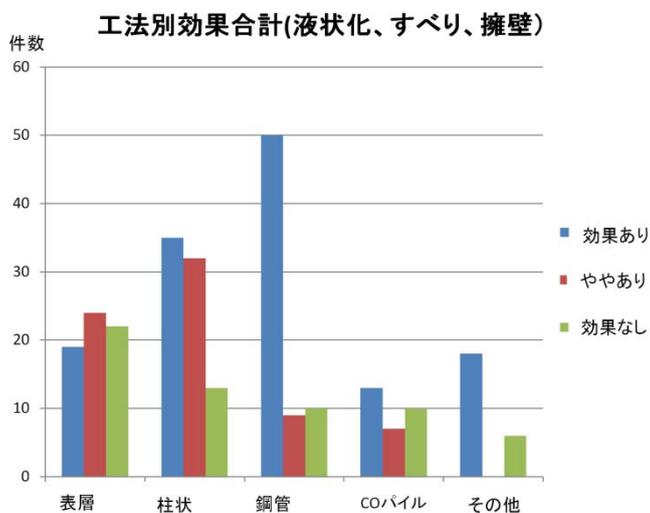
NPO 住宅地盤品質協会 東北地方太平洋沖地震宅地調査委員会

東日本大震災に関する宅地被害アンケートについて、会員の方々にお願いしたところ全会員の32%にあたる164社からの回答をいただきました。そのうち震災被災地区での調査および工事施工の実績は60社の方から実施ありとの回答をいただきました。

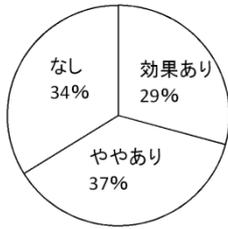
ご協力いただきましたことを御礼申し上げます。また多数の会員さんからアンケート結果についての公開要望がございましたので、アンケート集計結果の概要をお知らせします。詳細につきましては、委員会においてさらに分析を行った後にホームページ等にて公開させていただきます。

- ① 宅地の被害事例としては液状化が最も多く、次いで擁壁変状、造成地のすべり破壊となっておりました。
- ② 地盤調査による震災予測については、予測できたのは、液状化22%、造成地のすべり6%、擁壁変状11%と比較的低い割合でした。
- ③ 補強工法による効果については、おおむね補強による効果があったとの結果であります。工法別で効果があった順番としては、鋼管、柱状改良、表層改良の順番でありました。補強工法の効果が見られたことは、業界としても好ましいことと考えられます。ただし効果がないとの事例もあることから、今後詳細に検討していく必要があるかと思えます。

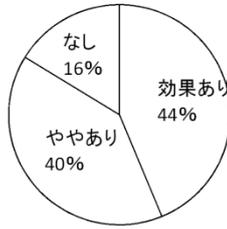
委員会では今後、被害物件の資料提供をお願いしたいと考えておりますので、ぜひともご協力をお願いします。資料提供のお願いについては地盤通信などで別途ご案内いたします。



表層改良効果合計 (65 件)

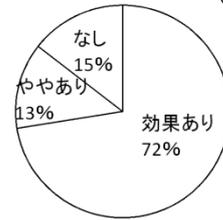


柱状改良効果合計 (80 件)



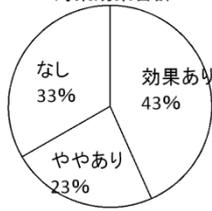
鋼管対策効果合計

(69 件)



小口径既製コンクリートパイル
対策効果合計

(30 件)



その他工法対策効果合計

(24 件)

